

宮沢賢治や棟方志功を世に出した郷土の詩人 佐藤一英

一英と樫の木文化資料館



佐藤一英(1899~1979)は、萩原町高松出身の詩人です。大学へ進学した頃、エドガー・アラン・ポーの詩に夢中になり、詩の世界を志しました。詩集「晴天」の刊行や名古屋の詩誌「青騎士」の創刊により、新進の詩人として認められます。一英氏の長編詩「大和しよし」や聯組詩「空海頌」に版画家の棟方志功が感動し、版画化したことで、彼は広く世に知られることとなります。さらに一英は童話誌「児童文学」に文通で縁があった宮沢賢治の長編童話を掲載し、昭和初期の名作を後世に残すきっかけとなったのです。戦後は故郷に戻り、「日本の文化の根源はカシノ木に

ある」とする樫の木文化論を展開、また、愛する尾張の地で子ども達の為に幾つもの小中学校や高校の校歌を作詞しました。長男である史門氏のお話によりますと、「厳格なところもありましたが大変心優しい父でした。父の生涯をかけて書き続けた詩には、現代社会の色々な問題や事件に訴えかけるメッセージが込められている様な気がします。」更に「父はとても粋な人でした。和服にソフトハットを被りマントを羽織る姿が印象的だった。」とも。

右の写真は、一英氏の二男漣氏による肖像画です。

令和3年4月に「みうら郷土館」が再オープンし、9月からも未公開作品が特別展示されます。

この機会におでかけしてはいかがでしょうか。



みうら郷土館

【展示期間】令和3年9月1日~11月30日

【開館予定日】毎週日曜日

【開館時間】午前11時~午後3時

【入場料】無料

【所在地】一宮市萩原町萩原字河原崎108

編集後記

市内でコロナウイルス感染者数が増加し、緊急事態宣言下での議会となり、これまでと同様に傍聴をお控えいただくなど、市民の方のご協力も得て、感染症拡大防止に努めてまいりました。

また、議会だより編集委員も新しい顔ぶれとなり、今後とも読みやすい議会だよりをつくってまいります。

議会だより編集委員会

委員長 本山 廣次

副委員長 鵜飼 和司

委員 木村 健太 大津 乃里予 市川 智明
小林 けいめい 宇山 祥子 服部 修寛

議会だより138についてのご意見をお聞かせください。(一宮市議会事務局 議事調査課 Tel. 0586-28-9139)

一宮市議会の情報については、一宮市のウェブサイト
(ホームページ)からご覧いただけます。 ID 1000010



一宮市マスコットキャラクター
いちみん